

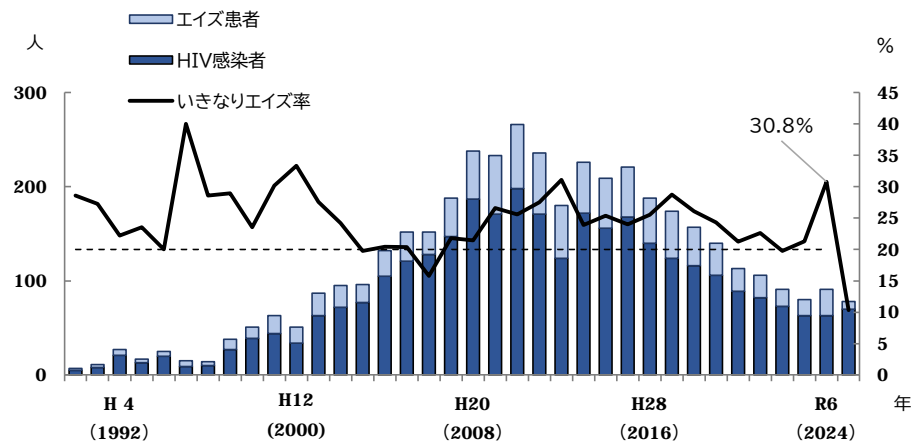
HIVの発生状況等

資料2

HIV対策

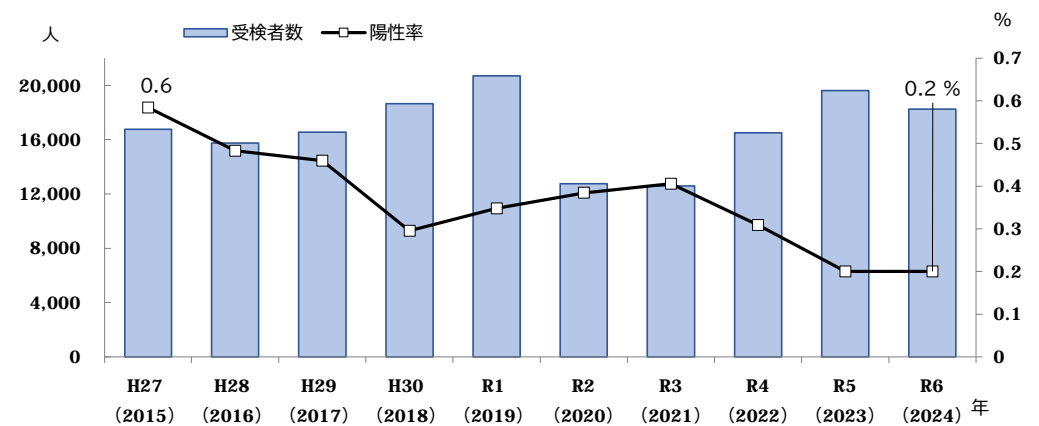
- 新規報告数は、HIV感染者・エイズ患者ともに近年、減少してきていたが、令和6年は増加。「いきなりエイズ率」(エイズ発症後にHIV感染判明)は、この数年20%前後であったが、令和6年は30%を上回る。令和7年の10/22時点を見ると、HIV感染者の新規報告数は既に前年を上回っているが、エイズ患者の新規報告数が少なく、「いきなりエイズ率」は低い状況である。
- 府内のHIV検査受検者数については、令和2年、3年は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響を受けて減少したが、令和4年からは改善がみられる。陽性率は、令和3年から減少傾向。

HIV感染者及びエイズ患者報告数



出典：感染症発生動向調査システム (R7は10/22の時点)

HIV検査の受検者数及び陽性率



出典：大阪府「医療・感染症対策課調べ」